

会議名 (審議会等名)	平成24年度 第2回 川西市青少年問題協議会		
事務局 (担当課)	こども部こども家庭室 こども・若者政策課 内線(3442)		
開催日時	平成24年11月30日(金)午前10時~11時30分		
開催場所	市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	大塩民生、益満良一、平岡譲、宇高秀典(服部玉記代理)、岡田八郎、鈴鹿成正、古谷茂樹、矢野孝雄、十河真由美、中井成郷、高木佳子、澁野敏彦、西田博光、田村嘉規、浦東健次	
	事務局	こども部長 中塚一司 こども・若者政策課 課長 金淵信一郎 主査 枅川容子、鳥越永都子 主任 久下 泰史 教育支援室 室長 松田康宏 青少年センター所長 上中敏昭 社会教育室 室長 岡野慶隆	
傍聴の可否	可	傍聴者数	2人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1. 開会 2. 委員の委嘱について(平岡譲委員) 3. 会長あいさつ 4. 報告事項 (1) 青少年ふれあいデーについて 5. 協議事項 (1) 「川西市子ども・若者育成支援計画(案)~げんきな若者かわにしプラン~」について (2) 「青少年の表彰選考委員会」の審査結果について (3) 「平成25年川西市PTCA青少年フォーラム」について (4) 「青少年ふれあいデー」の推進について 6. その他 7. 閉会		
会議結果	5. 協議事項 (1) 「川西市子ども・若者育成支援計画(案)~げんきな若者かわにしプラン~」の案に異議なし (2) 「青少年の表彰」選考委員会の決定通り、4団体2個人を表彰する。 (3) 平成25年PTCA青少年フォーラム開催要領(案)通り、実施する。 (4) 「青少年ふれあいデー」認知度調査を実施することで異議なし		

	<p>雇用主さん（会社の経営者）に相談して発会を年内にでも・・・と計画している。市内の業者の雇用主を40・50人集めて発会しようとしているが、まず窓口になる場所をどこにどうしようかと悩んでいる。</p> <p>是非この窓口も（市に）考えていただいて、この雇用主会を発足して1人でも多く就職させ、更生していただくために保護司会も動いていくので、是非市役所の方も力添えをお願いできないかと今回の会で頼もうと思っていた時に、この案を聞いたので、是非お願いしたい。</p>
事務局	<p>この案では、罪を犯した若者への社会復帰の問題については直接ふれておりませんが、一度考えさせてもらいたい。</p>
事務局	<p>協議事項（2）青少年の表彰選考委員会の審査結果について</p> <p>青少年の表彰選考委員による選考委員会を開催し、平成24年度青少年の表彰被表彰者（案）をまとめた経緯を説明。4団体2個人の被表彰者（案）を提案。</p>
委員	<p>8組の表彰希望団体の中から6組になった過程には、いろいろな問題が生じた。</p> <p>表彰規定に収まらない内容のもの 拡大解釈すれば、当てはまるかもしれないが、今回の場合は他の団体で表彰してもらえるのではないかと考えられる内容でしたので、見送った。</p> <p>継続性の問題をどのように考えるか 来年度以降続くのかわからないものに対して、「ご苦労さん」で表彰をするのは、趣旨に反すると考え今回は見送った。</p> <p>今回は、地域でより密着しているか、何年にもまたいで継続性があるかを一番の基準点にした。この青少年の表彰に対して「北部」地区は、趣旨をよく理解され、関心も強く感じるが、他の地区（中部・南部）にはあまり理解・関心がないように感じる。市全域にバランスよく表彰をしたいができていない。まだまだこの表彰に対しての広報・理解が、市全域に行き届いていないように感じる。何年かごとに、北部の同じ団体にしているように感じる。南部・中部に関しても、地域に密着した表彰に値する団体・個人が、きっとあると思うので、来年度以降この表彰選考にあがってきてほしい。</p> <p>表彰規定についても、今後検討すべきものがあるように感じた。</p>

全委員	質疑応答、なし
事務局	<p>協議事項(3)平成25年 川西市PTCA青少年フォーラムについて</p> <p>平成25年PTCA青少年フォーラム実行委員会を開催し、実施方法・場所・メインテーマ等に説明。開催要領(案)を提案。</p>
委員	<p>メインテーマに関しましては、「夢 with 明日」の「明日(あす)」に関しては、ダブルミーニングで「明日」と「us(私達を)」を含んでいる。「us」の内容は、家族・友人・先生・地域の方々を表現しています。「明日」には、青少年に「明日」を意識してほしい願いも含んでいる。「とび出そう」には、引きこもりの若者にも、「とび出そう」という願いも含んでいる。</p> <p>感謝の心をもって周りの方々に接したいと思わせられるような演出をしていきたいので、よろしく願いいたします。</p>
全委員	開催要領(案)通り実施することを決定。
事務局	<p>協議事項(4)青少年ふれあいデーの推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月11日(日)の街頭啓発活動について説明 ・料理レシピコンクールの応募状況について説明 ・写真コンクールの応募状況、審査日程について説明 ・川柳コンクールの応募状況について説明 ・青少年ふれあいデーテーマソングコンクールについての説明 ・“ちょっといい話”の募集について説明 ・青少年ふれあいデー認知度調査結果について説明
全委員	質疑応答、なし

	<p>5 . 情報交換</p> <p>(1) 各団体からの活動報告</p> <p>委員 川西市体育協会より 東谷コミュニティで、東谷小の佐藤校長の協力を得て放課後の子どもの居場所づくりとしまして「ともいつ(共に育つ)」と言う命名で「東谷コミュニティともいつクラブ」を立ち上げる運動をしている。 内容は、ボランティアの大人会員を募集して、それに子ども会員を加えて募集するためにチラシを配布し終わった。昔遊び・囲碁・将棋など地域の方が先生で教える。場所は、東谷小学校多目的室で、土曜日に開講し午前・午後する。町づくり推進部会が母体になって進めている。</p> <p>委員 川西地区更生保護女性会より 年2回発行の通信についてで、特に女性刑務所に収容されている女性のほとんどが、覚醒剤によるものであることについて記載している。 子育てを終えたお母さんが集まって、何かお役に立てないかを考えて動いている。</p> <p>委員 川西市青少年補導委員会より 12月3・4日に、全部で2組に分けて街頭補導をするのでご協力をお願いします。</p> <p>委員代理 兵庫県川西警察署より 少年非行現状について説明しますと10月末現在では、犯罪少年については92名で昨年より58.6%のプラスで、昨年度は少なかったこともあるが、今年が多い。県下でみると、マイナス傾向である。 補導件数では、川西市は減っている。 そこから考えると昨年度は、補導が多く非行予備軍が多かったのが、今年になって表に出てきたことで検挙数が増えたのではと。また逮捕者は、昨年14人が、今年は19人に増えた。2・3年前で比べても増えている。昭和から平成になったころから、なだらかに増えている傾向にはあるが、今年の19人は多いと考えられ、これからの課題である。</p> <p>委員 川西市子ども会連絡協議会より 今年で50年を迎えたのですが、最近の家庭環境・生活環境の変化から加入数は減少し16小学校区の8小学校区にとどまり、その加入率は20%に</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

満たない。子どもたちを支える大人の考え方の変化で、市子連（川西市子ども会連絡協議会）は、衰退傾向の一途をたどっている。

そこで、いろいろな方のご意見を参考にして「子ども会」を考え直そうと、新生市子連を模索中である。

「げんきな若者かわにしプラン」に記載されているように、子どもの小さいうちから地域の方・異年齢とつながることが、「子どもたちの安全」「地域の一人である自覚」「地域の活性化」「地域への愛着心」へとつながると考える。

川西市子ども会連絡協議会は、「川西市」と言う冠をもらっているのに20%とは残念なので、子ども・保護者を両方育てるうえでも地域のご協力をお願いしたい。

委員

久代地区の子ども会についてですが、市子連に入ると子ども会の行事で仕事が増えるので市の子ども会をやめたいと思っているようである。久代の子ども会の方は、わずかであれば地域の方にも協力すると建前ではいうが、実際は地域の行事（市民体育祭など）に参加を依頼すると嫌がるのが現状である。時間がないのか知らないが、「規約にないのでしない」などの理由でなかなか協力してくれない。特に役員でない子ども会の方は、全く無関係のような態度なので、子ども会の中でも意思の疎通が図れているのかよくわからない。

委員

自治会と老人会と子ども会が一緒になれる行事を企画すればよいと思う。例えば、畑の利用で、植え付け・収穫・収穫を調理して食すなど、段階ごとに上手く企画すれば、地域が一体になり協力して運営できる例を知っているので、聞かれればご参考までにお伝えします。

委員

引っ越しをされた際にすぐに、自治会の勧誘・子ども会の勧誘をすれば、引っ越しをされた方は「早く地域にとけ込みたい」と思われているので、1人も断られなかった経験がある。

そこで、市子連さんも加入率を伸ばしたいのであれば、引っ越しの際に自治会長と共に勧誘すればよいのではと考える。

6. 閉会（11：30）

会長あいさつ